

## 〈国語科より〉 読書のすすめ

新2年生の皆さんは、課題研究テーマを決めるためにすでに本を読んでいると思います。いろいろな本を読んでほしいと思いますが、国語科からは、来年度の授業で扱う小説や、入試対策にもなる読書を勧めたいと思います。

### ①『こころ』 夏目漱石

「上 先生と私」「中 両親と私」「下 先生と遺書」の三部からなる小説で、新3年生の皆さんは授業で「下 先生と遺書」の一部を読みました。まだ、全てを読んでいない人は、今でなくてもよいですが、是非読んでみてください。

新2年生は、授業で扱う前に読んでみてください。夏休みでもよいですが、今がチャンスです。「青空文庫」で簡単に読めます。

### ②『源氏物語』 紫式部

新2年生は、漫画からでもよいので、読んでみてください。「あさきゆめみし」は、私たちが読みました。人間関係を理解してから原文を読むと、わかりやすいです。

新3年生は、訳本も読んでみてください。与謝野晶子訳は、「青空文庫」で読めます。最近、角田光代の訳本が出版されました。その他、谷崎潤一郎や、円地文子、田辺聖子…大勢の作家が現代語訳に挑戦しています。それだけ魅力のある物語なのだと思います。

また、入試問題を解いていても、（この話はどこかで読んだことがある…そうだ、『源氏物語』だ）と思うような、『源氏物語』の影響を受けた物語がたくさんあります。一度読んでおくと、古文が身近なものになるはずですよ。

卒業した先輩は、古文の教科書に載っている話を読んでみたそうです。特に、教科書144ページからの「藤壺の里下がり」は、「藤壺の女御の苦悩を想像すると、涙が出そうになった」と言っていました。教科書には『源氏物語』の中でも特によく知られている部分が載っているので、是非、原文で味わってほしいです。

